

都市ガス 13A 安全データシート(SDS)

1.化学品及び会社情報

製品名	都市ガス 13A (導管による供給)
供給エリア	広島県 廿日市市 広島市 呉市 東広島市 三原市 尾道市 福山市 府中町 海田町 坂町
供給者の会社名称	広島ガス株式会社
担当部署	環境・社会貢献部
住所	広島県広島市南区皆実町2丁目7-1
電話番号	082-252-3154
緊急連絡番号 (24時間対応)	・広島・東広島地区 広島ガス保安指令センター 082-251-3219 ・呉地区 広島ガス保安指令センター 0823-22-3219 ・尾道・三原地区 広島ガス保安指令センター 0848-22-3219
推奨用途	燃料、水素製造原料

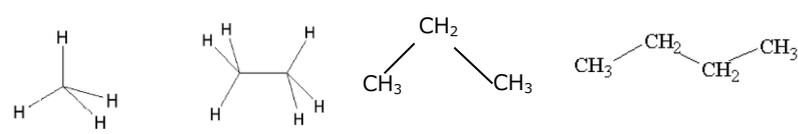
2.危険有害性の要約

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない。
	可燃性ガス	区分 1
	エアゾール	区分に該当しない。
	酸化性ガス	区分に該当しない。
	高圧ガス	区分に該当しない。
	引火性液体	区分に該当しない。
	可燃性固体	区分に該当しない、または 分類できない。
	自己反応性化学品	区分に該当しない。
	自然発火性液体	区分に該当しない。
	自然発火性固体	区分に該当しない。
	自己発熱性化学品	区分に該当しない。

	水反応可燃性化学品	区分に該当しない。
	酸化性液体	区分に該当しない。
	酸化性固体	区分に該当しない。
	有機過酸化物	区分に該当しない。
	金属腐食性物質	区分に該当しない、または分類できない。
健康に対する 有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない。
	急性毒性（経皮）	区分に該当しない。
	急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない、または分類できない。
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない。
	急性毒性（吸入：粉じん、ミス ト）	区分に該当しない。
	皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分に該当しない、または分類できない。
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当しない、または分類できない。
	呼吸器感作性	分類できない。
	皮膚感作性	分類できない。
	生殖細胞変異原性	分類できない。
	発がん性	分類できない。
	生殖毒性	分類できない。
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（中毒性（反復ばく露））
	誤えん有害性	区分に該当しない。
環境に対する 有害性	水性環境有害性 短期（急性）	分類できない。
	水性環境有害性 長期（慢性）	分類できない。
	オゾン層への有害性	分類できない。

絵表示又は シンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	極めて可燃性又は引火性の高いガス。 眠気又はめまいのおそれ。
注意書き	<p>【安全対策】</p> <p>熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。 (禁煙)</p> <p>屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 ガスの吸入を避けること。</p> <p>【救急措置】</p> <p>漏えいガス火災の場合、ガスが漏えいしている状態で消火すると かえって危険なため、ガスが安全に停止されない限り消火しない こと。</p> <p>安全に対処できるならば着火源を除去すること。 漏えい箇所の上流に設置されているバルブ又はコックを閉止する こと。</p> <p>吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休 息させること。</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>【保管】</p> <p>導管供給のため該当しないが、都市ガスを使用する室内において は常時有効な換気を確保すること。 導管及びバルブ類の識別を確実にすること。 漏えいのないように定期的に点検するかガス漏れ警報器を設置す ること。</p> <p>【廃棄】</p> <p>適切な燃焼器具を用いて燃焼処理を行い、放出しないこと。¹</p>

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の 区別	混合物
化学名又は一般名	都市ガス 1 3 A (City Gas 13A)
慣用名又は別名	天然ガス (Natural gas)、アルカン (Alkanes:C1~C4) (メタン、エタン、プロパン、ブタンの気体混合物)
化学式	メタン : CH_4 、エタン : C_2H_6 、プロパン : C_3H_8 、ブタン : C_4H_{10}
化学特性(化学式又は構造式)	(メタン) (エタン) (プロパン) (ブタン) 
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	メタン : (2)-1、エタン : (2)-2、プロパン : (2)-3、ブタン : (2)-4 天然ガス:8006-14-2
C A S 番号	74-82-8(メタン)、74-84-0 (エタン)、74-98-6 (プロパン)、106-97-8 (ブタン)
分類に寄与する成分	付臭剤 : ガス漏えい時に、都市ガスとわかる臭い成分を添加。 添加量 : 希釈倍率として 1,000 倍以上。 付臭主成分 [※] : ターシャリーブチルメルカプタン (TBM : 別名 2-メチルプロパン-2-チオール)、硫化ジメチル (DMS) ※ いずれも 1wt%未満のため通知対象外。
濃度又は濃度範囲	メタン 8 1 wt% (9 1 vol%) エタン 8 wt% (5 vol%) プロパン 5 wt%未満 (2 vol%) ブタン 6 wt%未満 (2 vol%)

4.応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸が止まっている場合は衣服をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。気分の悪いときは、医療措置を受けること。
皮膚に付着した場合	気体物質なので、皮膚に付着することはないと考えられる。
眼に入った場合	ガスが眼に入った場合、水で 15~20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこ

	と。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	気体物質であり、飲み込むことはないと考えられる。
予想される急性症状及び遅発性症状	高濃度のガスを吸入すると酸素欠乏症、窒息のおそれがある。
最も重要な兆候及び症状	<p>単純窒息性ガスであり、高濃度で麻酔作用を伴う可能性がある。</p> <p>高濃度ばく露（高濃度のガスの吸入）では、息切れ、眠気、頭痛、失調状態、視覚障害、嘔吐等の症状が現れる。</p> <p>高濃度ばく露が継続する状態では、低酸素状態となり、チアノーゼ、四肢の麻痺、中枢神経の落ち込み、心臓感作、意識不明等経て死に至る。</p>

5.火災時の措置

適切な消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素（直接消火に有効な消火剤ではない）
使ってはならない消火剤	<p>都市ガス自体には特になし。</p> <p>（但し、油・電気火災等、火災の状況によっては棒状注水等が危険である旨に注意のこと）</p>
火災時の対応	<p>①機器栓・ガス栓を閉止し、ガスの供給をしゃ断する。</p> <p>（火災発生箇所の上流側に設置されているバルブ類を閉止する）</p> <p>②初期の火災には、水、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。</p> <p>③連絡・出動要請</p> <p><ガス事業者以外></p> <p>すみやかに最寄りの消防署および都市ガス供給事業者（緊急連絡番号）に連絡し、出動を要請する。</p> <p><都市ガス事業者・卸供給事業者></p> <p>すみやかに最寄りの消防署に連絡し、出動を要請する。</p>
特有の危険有害性	<p>通常想定される火災では二酸化炭素が発生する。</p> <p>密閉された室内など空気供給の少ない状況では、二酸化炭素に加え一酸化炭素が発生する可能性がある。</p> <p>酸素欠乏、一酸化炭素中毒のおそれ。</p>

特有の消火方法	漏えいガス火災の場合、ガスが漏えいしている状態で消火するとかえって危険なため、ガスが安全に停止されない限り消火しないこと。漏えい箇所の上流側に設置されているバルブ類を閉止すること。
消火を行う者の保護	防火服などを着用し、火炎から体を保護する。 (長靴、消防服、手袋、眼と顔の保護、および呼吸器用保護具)
6.漏出時の措置	
漏出時の措置	<ul style="list-style-type: none"> ①すみやかに付近の着火源を取り除く。 ②電気器具のスイッチの操作を禁止する。 ③機器栓・ガス栓を閉止する。漏えい箇所の上流側に設置されているバルブ類を閉止し、ガスの供給を絶つ。 ④窓を開放し換気する。(電気機器のスイッチの操作を禁止しているため、換気用設備を始動させることは禁止) ⑤ガスが拡散するまでガスが感知される地域から人を避難させる。また、ロープを張るなどして同地域への人の立ち入りを禁止する。 ⑥すみやかに最寄りの都市ガス供給事業者(緊急連絡番号)に連絡し、出動を要請する。(ガス事業者以外のみ)
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	<p>漏えいガスを大量に吸い込まないように注意する。</p> <p>防護マスクなどで、口・鼻を保護する。</p> <p>吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪いときは、医師の診断、手当を受けること。</p>
環境に対する注意事項	情報なし。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏えいしたガスの回収はできないため、酸素欠乏に注意して換気に努める。
二次災害の防止策	<ul style="list-style-type: none"> ①付近の着火源を取り除く。(漏出箇所が消費機器直近の場合は停止し、付近の火気等も遮断する) ②ガスが拡散するまでガスの臭気が感知される地域から人を避難させる。また、ロープを張るなどして同地域への人の立ち入りを禁止する。

③すみやかに最寄りの都市ガス供給事業者（緊急連絡番号）に連絡し、出動を要請する。（ガス事業者以外のみ）

7.取扱い及び保管上の注意

技術的対策	<p>ガスを取り扱う室内においては、漏えいのないことを定期的にチェックし、常時有効な換気を確保する。また、その室内の電気設備は防爆仕様のもので設置する。</p> <p>法令によりガス漏れ警報器（または設備）の設置が義務付けられている場合には、法令の規定に従って設置するとともに、適宜警報器等の点検を実施し、その機能を維持しておく。</p>
局所排気・全体換気	<p>防爆仕様の局所排気・全体換気を行う。</p>
安全取扱注意事項	<p>使用後は、バルブ類を完全に閉止する。</p> <p>漏えいすると、発火、爆発する危険性があるので、周辺において、高温物、火花、火気の使用をしない。</p> <p>ガスを故意に吸い込まないこと。多量に吸入すると窒息する危険性がある。</p> <p>作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。</p>
接触回避	<p>以下、『10. 安定性及び反応性』の項参照。</p>
衛生対策	<p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
保管	<p>導管による供給のため、該当しない。</p>

8.ばく露防止及び保護措置

保護具	
呼吸器の保護具	<p>状況に応じて、適切な呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク、送気マスク、自給式空気呼吸器等）を着用すること。</p>
手の保護具	<p>必要により保護手袋を着用すること。</p>
眼・顔面の保護具	<p>必要により保護眼鏡を着用すること</p>
皮膚及び身体の保護具	<p>必要により耐熱服、安全靴を着用すること。</p>

許容濃度等（職業ばく露限界値、生物学的許容値、ばく露指標）	<p>日本産業衛生学会 (2024) ブタン（全異性体）500 ppm[*]</p> <p>※通常の労働時間（1日8時間・週40時間程度）のばく露において、ほとんどの労働者に健康障害がみられないと判断される濃度をいう。</p> <p>ACGIH TLV-STEL(2020) メタン 1,000 ppm、エタン 1,000 ppm、プロパン 1,000 ppm ブタン（全異性体）1,000 ppm</p> <p>ばく露低減の設備対策 防爆仕様の局所排気・全体換気を行う。法令によりガス漏れ警報器（または設備）の設置が義務付けられている場合には、法令の規定に従って設置するとともに、適宜警報器等の点検を実施し、その機能を維持しておく。</p> <p>特別な注意事項 多量に吸入すると窒息する危険性があるため、作業状況に応じて適切な保護具を着用し、漏えいガスを吸い込まないように注意する。</p>
-------------------------------	--

9.物理的及び化学的性質 (都市ガス 13A)

物理状態	空気より軽い無色透明な気体で単純窒息性ガス。
色	無色透明
臭い	安全のため付臭しており、ガス臭を有する。
臭いのしきい（閾値）	希釈倍率 1,000 倍（都市ガス 13A） ¹⁾
融点/凝固点	-183℃（融点）（メタン） ²⁾
沸点または初留点及び沸騰点範囲	-161℃（沸点）（メタン） ²⁾
可燃性	可燃性ガス
爆発下限界及び爆発上限界	4.3～14.5%（都市ガス 13A） ³⁾
引火点	-187.78℃（メタン） ⁴⁾
自然発火点	537℃（メタン） ²⁾
分解温度	データなし。

pH	データなし。
動粘性率	0.0109mPa・s (17℃ メタン) ⁵⁾
溶解度 (水)	33ml/l (20℃ メタン) ²⁾
n-オクタノール/水 分配係数 (log 値)	1.09 (メタン) ²⁾
蒸気圧	147kPa (21℃ メタン) ⁶⁾
密度または相対密度 (空気 = 1)	0.655 (都市ガス 13A) ³⁾
相対ガス密度 (空気 = 1)	0.6 (メタン) ²⁾
粒子特性	データなし。
その他のデータ (放 射性、かさ密度、燃 焼持続性)	データなし。

(各成分)

	メタン	エタン	プロパン	ブタン
物理的状態、形状な ど ²⁾	空気より軽い 気体	気体	空気より重い 気体	空気より重い 気体
色 ²⁾	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明
臭い ²⁾	無臭	無臭	無臭	無臭
pH	データなし	データなし	データなし	データなし
融点/凝固点 ²⁾	-183℃ (融点)	-183℃ (融点)	-189.7℃ (融点)	-138℃ (融点)
沸点又は初留点及び 沸騰範囲 ²⁾	-161℃ (沸点)	-89℃ (沸点)	-42℃ (沸点)	-0.5℃ (沸点)
可燃性	可燃性ガス	可燃性ガス	可燃性ガス	可燃性ガス
爆発下限界及び爆発 上限界 ²⁾	5~15vol%	3~12.5vol%	2.1~9.5vol%	1.8~8.4vol%
引火点	-187.78℃ ⁴⁾	-130℃ ⁷⁾	-104.44℃ ²⁾	-60.0℃ ²⁾
自然発火点 ²⁾	537℃	472℃	450℃	365℃
分解温度	データなし	データなし	データなし	データなし
動粘性率 ⁸⁾	0.0109mPa・s (20℃)	0.0090mPa・s (20℃)	0.0081mPa・s (20℃)	7.36μPa・s (17℃)
溶解度 (水)	33ml/l (20℃) ²⁾	47 ml/l (20℃) ⁵⁾	0.07g/l (20℃) ²⁾	0.061g/l (20℃) ²⁾
	アルコール、エ ーテル、その他		エーテル、エタ ノールに可溶 ¹⁰⁾	エタノール、エ チルエーテル、

	の有機溶媒に可溶 ⁹⁾			クロロホルムに易容 ¹¹⁾
オクタノール／水分配係数 ²⁾	1.09	1.81	2.36	2.89
蒸気圧	147kPa (21℃) ¹²⁾	3,850kPa (20℃) ²⁾	840kPa (20℃) ²⁾	213.7kPa (21.1℃) ²⁾
蒸気密度 ²⁾ [空気 = 1]	0.6	1.05	1.6	2.1
比重 (密度)	0.466 (-164℃) ¹¹⁾	0.572 (-108.4℃/4℃) ¹¹⁾	0.5853 (-45℃/4℃) ¹¹⁾	0.6 ²⁾
臭いのしきい (閾値) ⁴⁾	200ppm	185～1,106mg/m ³	1800～36,000mg/m ³	2.9～14.6mg/m ³

GHS 分類

可燃性又は引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	空気との混合物が 13%以下で引火性がある。	空気との混合物が 13%以下で引火性がある。	空気との混合物が 13%以下で引火性がある。	空気との混合物が 13%以下で引火性がある。
	UNRTDG クラス 2.1 に分類されている。			
	極めて可燃性・引火性の高いガス (区分 1)	極めて可燃性・引火性の高いガス (区分 1)	極めて可燃性・引火性の高いガス (区分 1)	極めて可燃性・引火性の高いガス (区分 1)

10. 安定性及び反応性

反応性	高温の物体との接触面、火災又は裸火により発火する。
化学的安定性	安定している。
危険有害反応可能性	強酸化剤と反応する。 火災または爆発は、フッ素、塩素、臭素、ヨード、五フッ化臭素、三フッ化塩素、二フッ化三酸素、二フッ化二酸素と接触すると起こる。
避けるべき条件	高温、火花、裸火、混触危険物質との接触。
混触危険物質	強酸化剤、例えばフッ素、塩素、臭素、ヨード、五フッ化臭素、三フッ化塩素、二フッ化三酸素、二フッ化二酸素。

危険有害な分解生成物	火災時の燃焼により、二酸化炭素が発生するが、密閉された室内など空気供給の少ない状況では、二酸化炭素に加え一酸化炭素が発生する可能性がある。(酸素欠乏、一酸化炭素中毒のおそれ)
------------	---

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	全成分で情報なし。
急性毒性（経皮）	全成分で情報なし。
急性毒性（吸入）	急性毒性推定値（A T E mix）：> 344,443 ppm より、区分外。 【A T E mix 算出に用いた元データ】 メタン：マウスでの L C ₅₀ (2 時間)値 ¹³⁾ ：> 500,000 ppm プロパン：モルモットでの L C ₅₀ (4 時間)値 ¹⁴⁾ ：> 800.000ppm ブタン：ラットでの L C ₅₀ (4 時間)値 ^{15),16),17)} ：> 277,374ppm
皮膚腐食性/皮膚刺激性	主成分のメタンは皮膚を刺激しない ¹⁵⁾ 。エタンは情報なし。プロパンはヒトの皮膚刺激性を検討したところ反応はないに等しい ¹⁷⁾ 。ブタンはデータなし。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	主成分のメタンは眼を刺激しない ⁴⁾ 。エタン、プロパンは情報なし。ブタンはウサギの眼を刺激しない ¹⁷⁾ 。また、ヒトのガスばく露例に眼刺激性は報告されていないが、明確に有害性を否定する報告もない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし。
生殖細胞変異原性	メタンは in vitro 試験のデータしかない ¹⁸⁾ 。エタンは情報なし。プロパンは in vitro 試験のデータのみ ¹⁵⁾ 。ブタンは細菌を用いる in vitro 復帰突然変異試験で陰性 ^{4),12),18)} 。
発がん性	データなし。
生殖毒性	データなし。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	主成分であるメタンは有害性がないとの記述があるが、エタン、プロパン、ブタンは麻酔作用を示す ^{12),18),19)} 。 眠気およびめまいのおそれ（区分 3：麻酔作用）。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	主成分のメタンは有害性がないとの記述がある ¹²⁾ 。エタン、プロパンは情報がない。ブタンは、ラットの反復ばく露試験（イソブタン、ペンタンとの混合物）で毒性が認められていない ⁴⁾ が、反復ば

	く露による神経症状の事例 ^{18),20)} から、危険有害性「区分 1 (中枢神経系)」に分類されている。
誤えん有害性	主成分が常温で気体の混合物であるため、分類対象外。

12.環境影響情報

生態毒性	データなし。
残留性・分解性	データなし。
生体蓄積性	データなし。
土壌中への移動性	データなし。
オゾン層への有害性	該当しない。
その他の情報	主成分のメタンは地球温暖化係数 28 倍 ²¹⁾ の温室効果ガスであり、他の成分は揮発性有機化合物であることから、環境中への放散を避けること。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物（配管中等）	不活性ガスでパージを行い、放出される都市ガスは適切な燃焼器具を用いて燃焼処理を行うこと。
汚染容器及び包装	導管より供給されるため該当しない。

14.輸送上の注意

国際規制	以下、導管により供給されるため該当しない。
国連番号	
品名	
国連分類	
陸上規制情報	
海上規制情報	
航空規制情報	
国内規制	
陸上規制情報	
海上規制情報	
航空規制情報	
特別の安全対策	

15.適用法令

労働安全衛生法	<p>名称等を通知すべき危険物及び有害物</p> <p>メタン、エタン、プロパン、ブタン（1wt%以上を含有） （法第57条の2、施行令第18条の2、規則第34条の2及び別表第2等）</p> <p>危険性又は有害性等を調査すべき物（法第57条の3）（メタン、エタン、プロパン、ブタン）</p> <p>施行令別表第1 第4号に定める危険物・引火性の物（メタン、エタン、プロパン、ブタン）</p> <p>施行令別表第1 第5号に定める危険物・可燃性のガス（メタン、エタン、プロパン、ブタン）</p>
海洋汚染防止法	施行令別表第一の四 危険3物（液化メタンガス）
ガス事業法	ガス成分の検査義務（法第29条）、付臭措置（省令第22条）、臭気の確認（ガス工作物技術基準の解釈例第77条）
大気汚染防止法	施行令第2条の2 揮発性有機化合物対象外物質（メタン）、法第2条の4 揮発性有機化合物（ブタン）
省エネ法	施行規則別表1（第4条関係、石油ガス、可燃性天然ガス）
地球温暖化対策推進法	<p>法第2条第2項2号 メタン（温室効果ガス定義）</p> <p>施行令第4条2号 メタン（地球温暖化係数：28）</p>

16.その他の情報

本記載内容は、労働安全衛生法の第57条の2に基づき、都市ガスを安全に取り扱うために必要な情報を提供し、都市ガスによる事故を未然に防止することを目的として作成されたものであり、いかなる保証あるいは責任等をもお受けするものではありません。また、注意事項、処置方法などは通常の手配を対象としたもので、特別な手配をする場合には、さらに用途に適した安全対策を講じられるようお願い致します。

医師に対する特別注意事項（意識喪失等重篤な被災者に対し考慮すべきこと）
アドレナリン（エピネフリン：交感神経興奮薬）を服用している場合あるいは不安、労作時のアドレナリン濃度上昇の場合、炭化水素の高濃度ばく露（例えば、密閉され

た空間、または、意図的な乱用でのばく露)において心臓不整脈を起こす場合がある。

交感神経興奮薬の投与が必要な場合は、投与後の心臓不整脈を考慮のこと。

参考文献等

1. 厚生労働省職場のあんぜんサイト GHS モデル SDS 情報
http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx
 2. (独) 製品評価技術基盤機構 NITE-Gmiccs SDS に必要な混合物の GHS 分類・ラベルの作成支援ツール
https://www.ghs.nite.go.jp/link/ja/gmiccs_Registered.html
-

- 1) ガス工作物技術基準・同解釈例の解説 (6 次改訂版, 2020, 日本ガス協会)
- 2) ICSC (J) (2003) : 国際化学物質安全性カード
https://chemicalsafety.ilo.org/dyn/icsc/showcard.listcards3?p_lang=ja
- 3) 工業炉ハンドブック (省エネルギーセンター、1997)
- 4) Patty's Toxicology (5th edition) volume4
- 5) Lange (14th,1992) p5.112
- 6) Haward (1997) p50
- 7) Sax (8th,1992)
- 8) 化学便覧基礎編(改訂5版)(2004)、丸善
- 9) Merck (Access on Jun 2005)
- 10) 有機化合物辞典 (1983) p870
- 11) Handbook of Data on Organic Compounds (3rd edition 1994)
- 12) 「化学物質毒性ハンドブック第Ⅱ巻」(1999) ,p121,丸善ホンメル (1991)
- 13) RTECS (2006)
- 14) (普及版)危険物ハンドブック(第1巻)
- 15) Human Toxicology(1982), vol. 1, 239-247
- 16) ACGIH(2020) : TLVs and BEIS
- 17) 日本産業衛生学会「許容濃度の勧告 (2021 年度)」
- 18) ドイツ学術振興会(DFG) : "Occupational Toxicants Critical Data Evaluation for MAK Values and Classification of Carcinogens" Vol. 8.
- 19) 国立研究開発法人 国立環境研究所 化学物質データベース Webkis-Plus
- 20) Patty's Toxicology (6th edition) volume2
- 21) 地球温暖化対策の推進に関する法律施行令 第4条2号